
OB 通信

2008 年 No.4

(2008.7)

北海道大学対東北大学陸上競技定期戦

- ・ 男子、総合優勝で八連覇、通算成績は 39 勝 29 敗 1 分け
 - ・ 男子棒高跳で白井(3)が 4m50
 - ・ 女子走幅跳で菊地(3)が 5m03(+0.4)の大会記録をマーク
-

～目次～

- ・ 2008 日本学生陸上競技個人選手権大会 (2 ページ)
- ・ 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 (3～16 ページ)
- ・ 自己記録更新者一覧(5/19～6/30) (17～19 ページ)
- ・ 副務からのお知らせ (2 0 ページ)
- ・ 今後の予定 (2 1 ページ)
- ・ 編集後記 (2 1 ページ)

盛夏の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

今号では、2008 日本学生陸上競技個人選手権大会、北海道大学対東北大学陸上競技定期戦の結果をお伝えいたします。

2008 日本学生陸上競技個人選手権大会(6/6～8) 於 平塚競技場

「全日本学生チャンピオンシップ」から名称を改めたこの大会には、初日に行われた男子5000m(参加標準記録：14'50"00)に齋藤(4)が出場しました。

■男子 5000m 決勝

氏名(学年)	記録	順位
齋藤 純(4)	15'16"83	26 位

～出場報告～

今回の日本学生陸上競技個人選手権大会は、私自身初となる全国規模の大会で、その出場資格を得た時から心躍る思いでした。しかし、結果は15'16"83で26位と揮わず、全国の壁の厚さを実感するばかりでした。

この時期、就職活動に躓き、安定した練習量を確保できなかったばかりか、精神的にも不安定になり、また予想以上の暑さ、長旅の疲れなどもあって…、と言いつつをすれば枚挙に暇がないわけなのですが、スピードでは驚かないようにと、いつも以上にスピード練習を積み、ある程度速い展開でも余裕を持って進められる自信を持って臨んできたつもりでした。

しかし、そう速くないペースにも関わらず、スタート直後から体が動かず、600m 地点で最後尾まで落ち、そこからは落ちてくる選手をただ拾っていくだけのレースになりました。1000m 毎のLAPも徐々に落ち始め、3000mからは一人旅になり、さらに苦しい展開となりました。ラスト1000mで前の選手たちが見えるようになってきて、少し勇気が沸き、再びペースアップを図ると、最後の1000mを2'55"程まで上げることができ、何とか最低限のタイムだけは残せたと思います。

今回の大会では、ちょっとした調整ミスが全体に大きく響きました。全国の大舞台を前にすると、そんなちょっとしたミスでも取り返しのつかないことになりかねないということを学ぶことができたと思います。練習でも、それ以外の時でも、常に最高のパフォーマンスを引き出すために集中していくことが、強くなればなるほど求められてくると感じました。今回感じたことを活かし、今後はチームを全国に引っ張っていけるようさらに精進していきたいと思います。

齋藤 純

第 69 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 対校得点

1 位	東北大学	94 点	(T44 点 F 50 点)
2 位	北海道大学	86 点	(T56 点 F 30 点)

第 21 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦 対校得点

1 位	北海道大学	55 点	(T34 点 F 21 点)
2 位	東北大学	24 点	(T16 点 F 8 点)

男子は第 69 回、女子は第 21 回となる伝統の一戦が、北海道岩見沢市東山公園陸上競技場にて開催されました。

男子、女子ともに総合順位は昨年と同様の結果となりました。男子は、フィールドの部で 20 点もの大差をつけて勝ち越し、これが総合優勝につながりました。一方、トラックの部では、長距離種目で多くの対校点を稼ぐことができたものの、短・中距離種目は今ひとつ振るわない結果となりました。女子は、3000m の一種目でしか勝ち越すことができず、トラックの部、フィールドの部ともに敗れてしまいました。

また、種目ごとの主な結果としては、男子棒高跳に出場した白井(3)の 4m50、女子走幅跳に出場した菊地(3)の 5m03(風：+0.4)という大会記録が光りました。



写真：閉会式後、トラックにて記念撮影

※太字下線が東北大学の選手です。

トラック

男子 3000mSC

1位	川口 亮平 (M1)	<u>9'44"90</u>
2位	島田 健作 (4)	<u>9'47"46</u>
3位	箭内 正輝 (2)	<u>9'54"64</u>
4位	前田 拓樹 (2)	10'30"23
5位	真田 祐樹 (1)	10'54"51
6位	妻木 孝介 (4)	11'06"88

昨年同様、川口、島田、箭内が出場した。中長距離種目の中では最も得点しやすい種目とされており、また川口の三連覇がかかっていたことでも注目が集まっていた。

1番手に箭内、2番手に島田、3番手に川口がつけてスタートをきると、序盤から北大勢に大きく差をつける展開となる。1000m通過の時点で、3番手の川口と4番手の前田(北大)との差は50m以上と、早くも圧勝ムードとなる。中盤で川口が一気に1番手に上がり、箭内、島田に差をつけ始める。2000m通過後、箭内がやや失速し、島田が2番手に上がる。その後、川口の連覇を阻止せんと、ラスト1周から島田がさらにペースを上げ、川口との差を徐々に縮めていったが、川口がそのまま逃げ切り1位でフィニッシュ。見事三連覇を成し遂げた。それに島田が2位、箭内が3位と続き、前評判どおり東北大勢が上位を占めた。

今回は、北大の選手層の薄さから圧勝となったが、七大戦で上位に食い込むレベルには一歩及ばなかった。残り一ヶ月でさらなるレベルアップを要するだろう。

女子 3000m

1位	只野 奏子 (4)	10'27"25
2位	小海 麻美 (2)	<u>10'42"89</u>
3位	大淵 真波 (4)	<u>10'43"53</u>
4位	千葉絵里子 (2)	<u>11'22"04</u>
5位	江副美紗子 (1)	12'10"20
6位	川畑友紀恵 (2)	12'18"78

昨年3位の小海、4位の大淵に加え、不調を押して千葉が出場した。東北大勢が北大のエース・只野にどこまで迫れるかがレースの見どころとなった。

只野の後方に東北大勢がつくかたちで集団が形成されると、スタート直後から勝負はその四人に絞られる。1000m通過直後に大淵が集団の先頭に立ったが、ここで千葉が失速し、集団から脱落する。2000m通過直前に只野がペースを上げ、ここで大淵と小海は一気に引き離される。小海が2番手、大淵が3番手でほぼ同時に2000mを通過し、徐々に広がる只野との差を少しでも縮めようと最後の粘りを見せる。しかし、只野のスパートを上回ることができず、大きく差をつけられて小海が2位、大淵が3位でフィニッシュ。中盤以降、失速を抑えきれずに苦戦を強いられた千葉は4位となった。

やはり、全国レベルで活躍する只野には対抗しきれなかったが、ここにきて小海がようやく復調の兆しを見せ始めた。

男子 400m

1位	田中 裕志 (4)	50"57
1位	小林 直人 (4)	50"57
3位	相澤 祐介 (4)	50"96
4位	高林 佑輔 (1)	51"17
4位	瀬川 雅博 (4)	51"17
6位	遠藤 智之 (2)	51"79

主将・田中、ここ最近の練習に熱が入っていた遠藤、そして期待のルーキー・高林が出場した。田中、高林のワンツーフィニッシュも夢ではないほど、前評判は上々なものであった。

2レーンの遠藤は、序盤こそ快調に走れたものの、150m 過ぎから徐々に遅れていく。ラスト 100m で遅れを取り戻すべく粘りのスパートを見せ、前との差を縮めたが一步及ばず、6位でフィニッシュ。4レーンの高林は、スムーズにスタートをきって中盤でややリードする。ラスト 100m を迎えたところで2、3番手となるが、ラスト勝負で北大勢に競り負け、同着4位でフィニッシュ。6レーンの田中は、スタートからトップ争いを繰り広げ、300m 地点でついにトップに立つ。ラスト 100m もスピードはほとんど落とさなかつたものの、追い上げてきた小林(北大)につかまり、同着1位でフィニッシュ。

田中、高林ともにラスト勝負をものにしていれば北大と引き分けることができただけに、非常に残念な結果となった。本来の力を発揮しきれていれば負けることのないレースではあったが、ラストの勝負強さをつけることが今後の課題となった。

女子 400m

1位	板倉 未来 (3)	62"46
2位	脇坂美穂子 (4)	62"63
3位	坂楨有紀恵 (1)	65"18
4位	星 朝香 (3)	65"86
5位	山根 裕子 (1)	68"33
6位	須藤 彰子 (3)	68"88

エース・脇坂、ダイナミックな走りが売りの星、そして中距離パートから須藤が出場した。北大とはほぼ互角であり、ギリギリで勝ち越すことができるかどうかといった具合であった。

3レーンの須藤は、安定したペース配分で走ることができたが、他選手との絶対的なスピードの差が顕著となり、得点争いにかからむことができずに6位でフィニッシュ。5レーンの脇坂は、板倉(北大)との一騎打ちとなるも、終始軽快な走りで一步リードし、余裕を見せる。しかし、スパートをかけた板倉にゴール目前でかわされ、僅差の2位でフィニッシュ。7レーンの星は、大きい動きで悠々とした走りを見せる。しかし、脚の回転の速さで坂楨(北大)に劣り、4位でフィニッシュ。

僅差で敗れた脇坂であったが、短期間でここまで力を戻してきたところにやはりエースの力を見て取れる。七大戦での昨年以上の活躍も十分に期待できる。

男子 100m(風 : +0.1)

1位	江馬 彰俊 (4)	10"99
2位	飯田 謙 (2)	11"42
3位	柴田 智弘 (3)	11"67
4位	神林 啓人 (4)	11"76
5位	宇田 侑平 (4)	11"89
6位	草野 周 (4)	12"13

100m メインの宇田の他、400mH をメインとする神林、柴田が出場した。抜群のスプリント力をもつ北大のエース・江馬を相手にするというので、前評判は厳しいものであった。

2レーンの宇田は、良い動きで鋭いとび出しを見せたものの、中盤以降で差をつけられてしまい5位でフィニッシュ。4レーンの神林は、重そうな走り本来のスピード感を十分に発揮できないながらも、一步一步の力強さが利いて4位でフィニッシュ。6レーンの柴田は、軽やかで無駄な動きのない走りをしたものの、江馬、飯田(北大)との絶対的なスピードの差をうめることができずに3位でフィニッシュ。

北大のエースである江馬の力がとび抜けているということもあるが、やはり選手層の薄さは深刻である。しかし、オープン男子100m で自己ベストを更新した富樫(2)など、若い選手も徐々に力をつけてきているので、今後に期待が寄せられる。

女子 100m(風: +0.2)

1位	沼田 亜侑美 (3)	12"86
2位	高島 知充 (2)	13"15
3位	只野 奏子 (4)	13"41
4位	脇坂 美穂子 (4)	13"49
5位	酒巻 貴子 (4)	14"18
6位	星 朝香 (3)	14"73

400m に続いて脇坂、星が出場した他、跳躍パートから酒巻が出場した。北大のエース・沼田に脇坂が迫ることができれば、勝負は面白くなると予想された。

2レーンの星は、スタートでは鈍い動きとなったものの、中盤からスピードに乗ってくると、体格を生かした大きな走りでグンと前

に出る。それでも、序盤での遅れを取り戻すことができずに6位でフィニッシュ。4レーンの脇坂は、スタートで北大勢にやや遅れをとったが、中盤以降で強さを発揮し、只野(北大)に迫る。しかし、ラストで一步追上げが足りず、4位でフィニッシュ。6レーンの酒巻は、中盤以降で疲れが出始め、体のぶれとともに減速してしまう。ラストも思うように追上げが利かず、5位でフィニッシュ。

やはり、沼田の力が圧倒的過ぎた。しかし、全国レベルの選手であるとはいえ、中距離種目を専門とする只野(北大)にまで勝ちを許してしまったという点では、非常に厳しい結果となった。

男子 1500m

1位	中山 祐作 (3)	4'03"84
2位	齋藤 純 (4)	4'05"29
3位	石原 達雄 (M1)	4'12"29
4位	柏 真太郎 (3)	4'14"11
5位	尾形 洋平 (1)	4'19"20
6位	相澤 直人 (4)	4'20"54

昨年2位の齋藤の他、相澤、尾形が出場した。相澤と尾形が得点争いにどう食い込めるかが勝負のカギとなった。

スタートから齋藤が勢いよく飛び出し、大きくリードを取ってトップに出る。尾形は5番手、相澤は6番手と後方につけてレースを展開する。中盤までは、齋藤がトップを独走し、その後方にやや間をあけて北大勢三人、さらにその後ろに尾形、相澤という展開が続く。終盤にさしかかり、各選手がスパートをかけ始めたところでついにレースが動く。ラスト1周を迎えたところで齋藤が中山(北大)にとらえられ、一気にかわされてしまう。齋藤は一度つけられた差を縮めるべく、ラスト

200m となったところからさらに一段階上げてスパートをかける。結局、差を縮めることはできたものの、そのまま再浮上することなく2位でフィニッシュ。尾形、相澤はレースの動きに対応できず、得点争いにかからむことができないまま5位、6位となった。

東北大の現状として、1500m は中長距離種目の中で最大の穴である。齋藤に頼りきりである現状を打破し、2番手以降の選手のレベルアップが課題として明確になった。

男子 400mH

1位	村上 卓 (3)	55"57
2位	宮川 寛亮 (M1)	56"72
3位	柴田 智弘 (3)	57"52
4位	瀬川 雅博 (4)	57"52(着差あり)
5位	鈴木 貴幸 (2)	58"72
6位	加藤 聡 (4)	59"59

昨年3位の柴田、4位の加藤、そして鈴木が出場した。52秒台の記録をもつ宮川(北大)と55秒台の記録をもつ村上(北大)を相手に戦わなければならず、厳しい展開となった。

2レーンの鈴木は、ハードル練習を思うように積めていなかったわりには、スムーズなハードリングを見せる。しかし、終始得点争いにかからむことはできず、5位でフィニッシュ。4レーンの柴田は、宮川、村上にはやや遅れを取りながらも、300m地点までは快調な走りを見せる。しかし、ラスト100mで後続の瀬川(北大)につかまり、北大勢に上位を独占されるかと思われたが、着差ありとの判定により、同タイムながら3位となった。6レーンの加藤は、バックストレートに入ったあたりから早くも遅れ始め、中盤以降でもその遅れを取り戻すことができず、6位でフィニッシュ。

北大勢の上位独占はかろうじて阻止できたが、力の差を痛感させられてしまう結果となった。

女子 4×100mR

1位 北海道大学 50"69
[湯澤明夏 (3)・沼田亜侑美 (3)・高島知充 (2)・板倉未来 (3)]

2位 東北大学 53"08
[飛内茜 (3)・菊地亜加里 (3)・脇坂美穂子 (4)・酒巻貴子 (4)]

飛内、菊地、脇坂、酒巻のオーダーで出場した。北大との力の差は歴然であったが、それに臆することなくレースに臨んだ。

SDが良かった飛内は、70m過ぎからピッチの落ち具合が大きくなり、急激に失速してしまう。続く菊地へのバトンパスがスムーズにいかず、ここで北大と大きく差がつく。菊地は沼田に大きく引き離されないながらも、なかなか差を縮めることができない。脇坂は、序盤から猛烈な追い上げを見せるものの、一度できてしまった差をどうすることもできずに、ついにバトンは酒巻へ渡る。酒巻は、絶妙なバトンパスとなったものの、板倉(北大)との実力の差は覆せず、東北大は北大に大きく引き離されて2位でフィニッシュ。

レース展開の問題より何より、圧倒的な力の差で負けたとしか言いようがない結果であった。しかし、伸びしろは十分にあるので、これからの努力しだいで課題は克服できるだろう。

男子 4×100mR

1位 北海道大学 42"94

[草野周 (4)・飯田謙 (2)・

小林直人 (4)・江馬彰俊 (4)]

2位 東北大学 44"56

[岩崎辰哉 (2)・富樫宏朗 (2)・

神林啓人 (4)・橋本耕太郎 (4)]

岩崎、富樫、神林、橋本のオーダーで出場した。女子同様、実力ではやや不利と見られた。

岩崎は、草野とほぼ互角の走りを見せるものの、バトンパスが離れすぎてしまい、富樫がスタートで遅れを取る。富樫は、序盤の遅れを徐々に取り戻し、飯田とほぼ同時にバトンゾーンに入る。しかし、今度はバトンパスがつまってしまい、神林もスタートで出遅れる。やはり重そうな走りに見られた神林は、その差を広げないようにすることで精一杯といった走りとなり、差がついたままアンカーの橋本へバトンを渡す。ストライドの大きい走りをする橋本も、相手が江馬ではなす術がなく、東北大はさらに差を広げられて2位でフィニッシュ。

バトンパスの小さなミスも見られたが、実力差がそのまま表れた厳しい結果となった。

女子 800m

1位 只野 奏子 (4) 2'24"95

2位 二宮 暢子 (M1) 2'30"90

3位 大淵 真波 (4) 2'33"27

4位 須藤 彰子 (2) 2'38"38

5位 荒木佳那子 (1) 2'49"62

6位 藤井 志帆 (1) 2'49"70

3000m に出場した大淵、400m に出場し

た須藤の他、大学初レースとなった荒木が出場した。北大の只野の圧倒的な力には対抗できないとしても、北大との得点差を最小限に食い止めることが目標とされた。

スタートから各選手とも単独走となる。只野が大きくとび出してトップを独走する中、大淵が3番手、須藤が4番手、荒木が5番手で400mを通過する。その後も順位が変わることなく、各選手間の差が広がるばかりで、大淵が3位、須藤が4位でフィニッシュ。荒木は、ラスト100mで藤井(北大)にとらえられてしまうが、僅差で逃げ切って5位でフィニッシュ。

両大学とも選手層の薄さ、特に若い選手の力不足が目立ったが、大淵と須藤が自己ベストの好走を見せた。

男子 800m

1位 稲垣 洋平 (4) 1'58"90

2位 本間 亮太 (2) 1'58"98

3位 石原 達雄 (M1) 1'59"91

4位 田村 淳 (1) 1'59"93

5位 川口 亮平 (M1) 2'02"67

6位 宮崎 弘 (3) 2'04"87

3000mSC 同様の活躍が期待される川口、中距離種目専門の本間、田村が出場した。本間、田村の若い二人が年齢層の高い北大勢にどこまで対抗できるかが注目された。

スタート直後は順位が入れ替わり混戦となったが、200m通過直前で本間が1番手、田村が2番手となり集団を引っ張る。川口は、多種目出場の疲れからか本来のスピード感を欠き、集団からやや離れた位置にとどまる。400m通過時も依然として本間、田村が1、2番手をキープして良い展開となる。一度、北大勢との差を広げることができたものの、

ラスト 200m となったところで稲垣、石原(北大)が追い上げを見せ、田村がかわされ本間がとらえられる。ラスト 100m は本間対稲垣、田村対石原とそれぞれ激しい競り合いとなったが、北大勢が一枚上手であり、本間が 2 位、田村が 4 位でフィニッシュした。川口は、得点争いにからむことができないまま 5 位でフィニッシュした。

ラストの勝負をものにできず、本間、田村ともに 0.1 秒以下の僅差で敗れたことは非常に悔やまれる。しかし、本間が自己ベストを更新し、田村が万全でない状態ながらも好走し、エース級の選手にここまで張り合えたということは前評判以上に健闘したと評価できる。

男子 110mH(風: -1.9)

1 位	宮川 寛亮 (M1)	15"57
2 位	岩崎 辰哉 (2)	16"07
3 位	一ノ倉 聖 (2)	16"35
4 位	村上 卓 (3)	16"65
5 位	今泉 卓真 (3)	16"67
	横尾 泰宜 (M2)	失格

110mH を専門とする岩崎、一ノ倉に加え、投擲パートから今泉が出場した。昨年 1 位の宮川(北大)と昨年 2 位の岩崎との勝負が見どころであった。

2 レーンの今泉は、予想以上に軽やかなハードリングで村上(北大)に迫り、得点が期待される展開となるも、ゴール直前で逃げ切れ、僅差の 5 位でフィニッシュ。4 レーンの岩崎は、大きい走りとスピーディーなハードリングで、懸命に宮川と競り合うが、中盤以降で離されてしまい 2 位でフィニッシュ。6 レーンの一ノ倉は、スタートのとび出しが鋭く、1 台目では宮川とほぼ互角のハードリン

グとなる。中盤から前に行く二人に離されるも、後続の追従を許さず 3 位でフィニッシュ。

やはり、北大の部記録保持者である宮川には対抗しきれなかったが、短距離種目の中では唯一五分に持ち込んだ。

男子 200m(風: ±0.0)

1 位	江馬 彰俊 (4)	22"23
2 位	八木 洋光 (M1)	22"42
3 位	宮下 昌人 (M2)	23"04
4 位	田中 裕志 (4)	23"22
5 位	市橋 佑真 (1)	23"50
6 位	常泉 竜太 (2)	23"72

昨年も出場した八木、田中に加え、大型新人の市橋が出場した。八木と江馬(北大)の熾烈なトップ争いに注目が集まった。

3 レーンの田中は、前半はゆったりと抑えめの展開となるが、後半で徐々にスピードを上げていく。前に行く宮下(北大)をとらえようとするも、かわすことができずに 4 位でフィニッシュ。5 レーンの市橋は、序盤から周囲のスピードにうまく対応しきれず、さらに終盤でもやや減速してしまい、5 位でフィニッシュ。7 レーンの八木は、序盤から上位争いを引っ張り、100m 地点からは江馬との激しい競り合いとなる。最後まで一步も譲らない争いを見せるが、僅差の 2 位でフィニッシュ。

八木、田中ともに僅差で敗れ、北大に勝ち越されてしまった。市橋も本領発揮とはいかずに、悔やまれる結果に終わってしまった。

男子 5000m

1位	大場 直樹 (2)	15'20"23
2位	齋藤 純 (4)	15'22"68
3位	柏 真太郎 (3)	16'04"34
4位	箭内 正輝 (2)	16'13"06
5位	膳法 和樹 (3)	16'40"04
6位	中山 祐作 (3)	16'56"47

二種目出場となる齋藤、箭内に加え、大場が出場し、齋藤、大場、中山(北大)の三選手によるハイレベルな争いが予想された。

スタート直後から齋藤が積極的に集団を引っ張り、大場が2番手でそれに続く。箭内は後方で5番手につける。2'56"で1000mを通過すると、先頭争いは齋藤、大場、中山の三人に絞られる。6'00"で2000mを通過したところで、中山が脱落し、急激にペースダウンすると、大場が先頭に出る。箭内は、ペースダウンした中山、膳法(北大)をかわし、3000mSCの疲れもある中で粘りの走りを見せる。3000mを通過したところで齋藤がペースダウンして大場から離れてしまうが、後方との差は大きく、大場、齋藤のワンツーフイニッシュは決定的となる。ラストは、齋藤が猛烈なスパートをかけて大場にあと一歩のところまで迫ったが、一方の大場も負けじとスパートをかけ、二人は後続を大きく引き離して見事ワンツーフイニッシュを飾る。中盤以降苦しい展開となった箭内も4位でフィニッシュし、1点を死守する。

七大戦においても、このように過酷な気象条件下でレースが行われることが想定されるが、気温が高く陽射しも強い中で、齋藤と大場は大崩れすることなく堅実に良い結果を残し、安定感ある走りをアピールした。

女子 4×400mR

1位	北海道大学	4'11"03
[板倉未来 (3)・只野奏子 (4)・高島知充 (2)・沼田亜侑美 (3)]		
2位	東北大学	4'28"86
[菊地亜加里 (3)・脇坂美穂子 (4)・須藤彰子 (3)・星朝香 (3)]		

菊地、脇坂、須藤、星のオーダーで出場した。4×100mR同様、苦戦を強いられることが予想された。

菊地は、圧倒的な強さを誇る板倉に全く対抗できず、差を広げられるばかりとなる。続く脇坂はエースの貫禄を見せ、只野との差を徐々につめていくが、その差は大きく、とても覆せるものではなかった。脇坂からバトンを受けた須藤は、800mの疲れのせいか、序盤から動きが鈍く、高島に一気に引き離される。終盤ではさらに失速してしまい、やっとの思いで星にバトンを渡した。星も、相手が沼田ではどうにもならない。大きな走りで懸命に沼田を追うものの、ラストは100mほどの差をつけられ、東北大は2位でフィニッシュ。

昨年は4秒弱の差だったものが、今年は実に15秒以上もの差がついてしまった。リレー二種目とも北大に敗れ、短距離種目では大きな得点差をつけられてしまった。

男子 4×400mR

1位	北海道大学	3'21"33
[江馬彰俊 (4)・小林直人 (4)・相澤祐介 (4)・瀬川雅博 (4)]		
2位	東北大学	3'22"67
[柴田智弘 (3)・高林佑輔 (1)・遠藤智之 (2)・田中裕志 (4)]		

柴田、高林、遠藤、田中のオーダーで出場した。昨年はわずか 0.35 秒差で敗れただけに、今年はその雪辱を果たす結果が期待された。

柴田は、バックストレートで江馬に差をつけられてしまうが、逆にホームストレートではその差を縮め、まだまだ逆転できる位置で高林にバトンを渡す。高林は、100m 地点から加速し、小林との差を一気につめ、背後にまで迫る。しかし、ラスト 100m を迎えたところで疲れが起始め、徐々に失速してしまう。バトンパスもスムーズにいかず、せっかく縮めた差がまた大きくなり、バトンは遠藤に渡る。遠藤は、バトンパスでのタイムロスの影響で序盤から大きく遅れを取る。後半から少しずつ追い上げを見せ、ラスト 100m のスパートで相澤との差を縮めるものの、またバトンパスがうまくいかない。再び差が広がってしまったところで、いよいよアンカー田中が走り出す。瀬川のスタートダッシュにより、バックストレートではやや離される展開となる。ラスト 200m からじわじわと差を縮めていくが、ホームストレートにさしかかってもまだその差は覆しがたいままであり、田中の懸命のラストスパートもむなしく、東北大は 2 位でフィニッシュ。

男子も、リレー種目で北大に完敗してしまった。しかし、昨年よりレベルの高い勝負ができたことや、バトンパスの改善しだいで記録の向上が期待できることなど、暗い側面だけではない結果となった。

跳躍

男子棒高跳

1 位 白井 孝明 (3) 4m50(大会新)

2 位 橋本耕太郎 (4) 3m70

3 位 田中 隆介 (1) 2m70

4 位 今泉 卓真 (3) 2m50

おなじみの橋本、白井の他、投擲エースの今泉が出場した。白井の大会新記録樹立に期待がかかった。

今泉は、2m50 の試技を一発でクリアすると、記録を残し 4 位が確定したため、続く 2m70 以降の試技をパスする。田中(北大)が 2m70 の試技をクリアした後、以降の試技を放棄したところで勝負は決まり、橋本、白井がそれぞれどこまで記録を伸ばせるかに注目が集まった。橋本は、3m50 の試技から始め、これを一発でクリアする。続く 3m70 の試技を辛くも 3 回目でクリアするものの、3m80 を跳ぶことができず、2 位となる。白井は、3m80 の試技から始め、これを一発でクリアすると、続く 4m00 の試技も一発でクリアする。4m20、4m30、4m40 の試技はそれぞれ 2 回目でクリアし、大会新記録となる 4m50 は見事一発でクリアする。続く 4m60 の試技をクリアすることはできなかったが、これで自身が昨年樹立した大会新記録を更新し 1 位となる。

やはり、白井の大会新記録が何よりも光った。また、今泉の跳躍は再度挑戦するであろう十種競技に向けての良い経験となった。

男子三段跳

1位	長谷川翔平 (M1)	13m75(風 : +2.3)
2位	瀧澤 翔太 (2)	13m44(風 : +1.3)
3位	森田 康 (3)	12m95(風 : +1.7)
4位	藤田 光 (1)	12m85(風 : +0.5)
5位	西尾 大樹 (2)	12m27(風 : +0.9)
6位	染谷 拓 (4)	12m11(風 : -0.2)

昨年も出場した長谷川、瀧澤の他、染谷が
出場した。昨年、14m31(+3.4)で1位となっ
た長谷川の二連覇はほぼ確実であった。

長谷川は、一回目の試技で追い風参考記録
ながら13m75(+2.3)を記録し、北大勢との格
の違いを見せつける。その後、5回目の試技
で13m55(+1.9)を記録、そして6回目の試技
で13m49(-0.7)を記録し安定して13m台半
ばの跳躍を見せ、1位となった。瀧澤は、1
～3回目の試技で全てファールとなってし
まうが、4回目の試技で13m04(+2.4)を記録
し、まずは確実に記録を残す。続く5回目
の試技をパスすると、6回目の試技で
13m44(+1.3)を記録し、2位となった。染谷
は、3回目の試技で大学ベストに迫る
12m05(+1.5)を記録し、好調ぶりをアピール
する。そして、6回目の試技で大学ベストタ
イの12m11(-0.2)を記録するも、北大勢に一
歩及ばず6位となった。

1位、2位の記録が14m台、そして6位
の記録も13m台であった昨年と比較すると、
全体のレベルが低下してしまったようであ
る。

男子走幅跳

1位	鈴木 一輝 (1)	6m79(風 : +1.3)
2位	飯田 謙 (3)	6m77(風 : +1.4)
3位	長谷川翔平 (M1)	6m45(風 : +0.9)
4位	森田 康 (3)	6m26(風 : +1.4)
5位	落合 裕規 (3)	6m24(風 : +2.1)
6位	西尾 大樹 (2)	5m27(風 : +1.6)

三段跳に出場した長谷川、やり投に出場し
た落合に加え、7mジャンパーのルーキー・
鈴木が出場した。鈴木と北大の7mジャンパ
ー・飯田との勝負に注目が集まった。

鈴木は、2回目の試技で6m65(+0.8)、4
回目の試技で6m62(+0.4)、5回目の試技で
6m79(+1.3)を記録し、確実に6m台後半の
記録を残す。6回目の試技で7m台の跳躍が
期待されたが、惜しくもファール。それでも、
僅差で飯田に勝ち1位となった。長谷川は、
1回目の試技で6m24(+1.5)を記録すると、
以降2～4回目の試技をパスする。そして、
最後6回目の試技で自己ベストとなる
6m45(+0.9)を記録し、3位となった。落合は、
1回目の試技で6m17(+1.7)、3回目の試技で
6m24(+2.1)を記録するも、それ以降の試技
では5m台の記録にとどまり、5位となった。

僅差で飯田を下した鈴木であったが、やは
りまだ受験期のブランクを完全にうめきれ
ていないようである。七大戦で7m台の跳躍
を見せてくれることに期待がかかる。

男子走高跳

1位	竹内 将人 (2)	1m90
2位	藤田 光 (1)	1m85
3位	岡本 聖司 (4)	1m80
4位	湯本 健太 (4)	1m70
5位	長谷川翔平 (M1)	1m60
6位	柴田 智弘 (3)	1m50

走高跳メインの岡本の他、長谷川と短距離パートから柴田が出場した。2m00に迫る記録を持つ竹内(北大)を相手に、苦戦することが予想された。

長谷川、柴田はともに1m50の試技から始め、難なくクリアしたものの、柴田は続く1m55を跳ぶことができず6位となった。一方の長谷川は、1m55の試技をパスした後、1m60を2回目でクリアする。さらなる跳躍が期待されたが、1m65の一回目の試技に失敗したところで以降の試技をパスし、5位となった。岡本は、1m75の試技から始め、これを2回目でクリアする。続く1m80の試技をなんとか3回目でクリアするも、本調子ではない様子であり、1m85を跳ぶことができず3位となった。

相手方のエースばかりか、新人選手にまで後塵を拝し、対等に戦えたのが岡本だけという厳しい結果となった。

女子走高跳

1位	沼田亜侑美 (3)	5m37(風 : +0.3)
2位	高島 知充 (2)	5m08(風 : +0.4)
3位	菊地亜加里 (3)	5m03(風 : +0.4)
(以上、大会新)		
4位	酒巻 貴子 (4)	4m35(風 : +0.5)
5位	飛内 茜 (3)	4m34(風 : +1.6)
6位	三浦 紗土 (4)	4m30(風 : +0.7)

跳躍 PC・菊地の他、走幅跳メインの酒巻、飛内が出場した。100mでトップを独走した沼田(北大)の一人勝ちという覆しがたい前評判があった。

菊地は、1回目の試技で4m94(-0.2)、3回目の試技で4m94(+0.3)を記録し、上々の跳躍を見せると、6回目の試技で自己ベストとなる5m03(+0.4)を記録し、大会新記録を樹立した。しかし、沼田、高島(北大)がこれを凌ぐ記録をたたき出し、菊地は3位となった。酒巻は、3回目の試技までは3m台の記録にとどまったものの、4回目以降の試技では全て4m台を記録し、4m35(+0.5)の自己ベストで4位となった。飛内は、2回目の試技で4m19(+2.0)を記録し、好調ぶりをアピールすると、5回目の試技で4m34(+1.6)を記録し、これまた自己ベストで5位となった。

東北大勢がみな自己ベストを記録するという充実した結果となり、徐々に力をつけてきた様子を見せつけた。また、全体としても上位三名が大会新記録となるハイレベルな結果となった。

女子走幅跳

1位	湯澤 明夏 (3)	1m54(大会新)
2位	田口 蛍 (1)	1m35
3位	金巻あゆか (4)	1m25
	菊地亜加里 (3)	記録なし
	星 朝香 (3)	記録なし
	飛内 茜 (3)	棄権

走幅跳に続いて菊地が出場した他、短距離パートから星が出場した。1m50オーバーの記録を持つ湯澤(北大)を相手にする厳しい戦いとなった。

星は、1m25の試技から始めたが、3回目でもクリアすることができずに記録なしと

いう結果に終わってしまった。一方の菊地も、1m35の試技から始めたが記録を残すことができなかった。

記録を残しさえすれば最低でも1点は獲得できただけに、悔やまれる結果となった。全体としては、北大の湯澤が1m54の大会新記録を樹立し、レベルの高い内容であった。

投擲

男子やり投

1位	橋田 金重 (3)	58m39
2位	杉本 和志 (1)	56m39
3位	澤戸 史貴 (3)	48m63
4位	落合 裕規 (3)	44m15
5位	村上 卓 (3)	35m81
6位	川口 亮平 (M1)	25m45

川口、落合に加え、60m オーバーの記録が期待される杉本が出場した。投擲種目の中で唯一混戦が予想される種目であった。

杉本は1回目の試技で55m03、3回目の試技で52m36を記録し、橋田(北大)にややリードされながらも健闘する。続く4回目の試技で56m02、5回目の試技で56m39と徐々に記録を伸ばしていき、6回目の試技での逆転が期待されたが、惜しくもファールで2位となった。落合は、3回目の試技で唯一44m15を記録したものの、ファールが続いて記録を伸ばすことができず4位となった。川口は、40m台の投擲が期待されたが、3000mSCの直後の出場ということもあってか記録が伸び悩み、25m45で6位となった。

実力は十分あるだけに、杉本が1位を逃してしまったことは非常に悔やまれた。七大戦では、60m オーバーの記録が期待される。

女子砲丸投

1位	菊地亜加里 (3)	7m74
2位	平島 幸 (4)	7m68
3位	板倉 未来 (3)	6m72
4位	酒巻 貴子 (4)	6m58
5位	坂楨有紀恵 (1)	6m35
6位	飛内 茜 (1)	5m74

走幅跳と同メンバーの酒巻、菊地、飛内が出場した。前評判では、菊地と平島(北大)の一騎打ちという構図であった。

菊地は、3回目の試技で7m73、5回目の試技で7m71、6回目の試技で7m74と安定して7m台後半の記録を残し、1位となった。酒巻は、4回目の試技までは6m前後の記録にとどまったものの、5回目の試技で6m58の自己ベストを記録し、4位となった。飛内は、他の選手との実力差に苦しんだが、4回目の試技で5m74の自己ベストを記録し、6位となった。

菊地が平島を下し、また酒巻が4位に食い込んだことで勝負を五分に持ち込み、女子唯一の投擲種目で善戦した。

男子砲丸投

1位	今泉 卓真 (3)	12m07
2位	佐藤 敬直 (4)	10m17
3位	天間 拓也 (3)	8m88
4位	橋田 金重 (3)	8m76
5位	長谷川翔平 (M1)	8m34
6位	岸 大輔 (1)	7m24

11m オーバーの記録をもつ佐藤、12m オーバーの記録をもつ今泉の他、跳躍パートから長谷川が出場した。佐藤、今泉の出場により、東北大の勝ち越しは決定的であった。

今泉は、1回目の試技からいきなり12m04を記録すると、5回目の試技で12m07とさらに記録を伸ばし、余裕で1位となった。佐藤は、10m 台前半の記録にとどまり、実力を発揮しきれなかったものの、5回目の試技で記録した10m17で2位となった。長谷川は、3回目までの試技では8m 台に満たない記録であったが、5回目の試技で自己ベストとなる8m34を記録した。しかし、天間、橋

田(北大)に一步及ばず5位となった。

前評判どおり、今泉、佐藤がワンツーを決め、難なく勝ち越すことができたが、記録の面ではあと一つ物足りない結果となった。

男子円盤投

1位	菊地 晃一 (4)	36m66
2位	今泉 卓真 (3)	34m28
3位	天間 拓也 (3)	27m65
4位	長谷川翔平 (M1)	25m57
5位	橋田 金重 (3)	25m34
6位	藤田 光 (1)	24m74

北大勢の追従を許さない菊地、今泉の二枚看板に加え、長谷川が出場した。菊地、今泉のワンツーは確実であり、どこまで北大勢にリードをとれるかは長谷川の得点しだいであった。

菊地は、2回目の試技で35m65、5回目の試技で35m16を記録し、北大勢を寄せつけない展開となった。そして、6回目の試技で36m66を記録し、圧倒的な強さで1位となった。今泉は、3回目の試技で32m83を記録し、菊地とともに北大勢を引き離しにかかる。そして、5回目の試技で34m28と記録を伸ばし、2位となった。長谷川は、3回目の試技までは25m 台に一步及ばない記録となり、橋田、藤田(北大)と混戦を極める。続く4回目の試技で25m16、5回目の試技で25m57を記録し、混戦を勝ち抜いて4位となった。

最近では医学部陸上部での活動にシフトしていた菊地であったが、こちらでもしっかりと結果を残してくれた。

男子ハンマー投

1位 今泉 卓真 (3) 47m32

2位 佐藤 敬直 (4) 37m85

3位 橋田 金重 (3) 17m82

4位 杉本 和志 (1) 16m34

天間 拓也 (3) 棄権

砲丸投同様の活躍が期待された佐藤、今泉の他、やり投のエース・杉本が出場した。選手層の薄い北大は、もはや敵ではなかった。

今泉は、1回目の試技で44m67、2回目の試技で45m95を記録すると、早くも一人勝ちとなる。その後、5回目の試技で47m32とさらに記録を伸ばし、2位以下を大きく引き離して1位となった。佐藤は、今泉に差をつけられたものの、確実に30m台後半の記録を重ね、6回目の試技で記録した37m85で2位となった。杉本は、専門外の種目ながらも橋田(北大)との僅差の戦いを繰り広げたが、惜しくも敗れ16m34で4位となった。

上位独占とまではならなかったが、記録の面では北大に圧勝し、東北大の投擲陣の強さを見せつけた。

#自己記録更新者一覧(5/19~6/30)

<男子>

・100m

中嶋 啓太(M1)	11"40(風 : +1.6)	(6/21 第2回仙台大学陸上競技会)
神林 啓人(4)	11"56(風 : +1.0)	(6/21 第2回仙台大学陸上競技会)
宇田 侑平(4)	11"80(風 : ±0.0)	(6/21 第2回仙台大学陸上競技会)
富樫 宏朗(2)	11"46(風 : +0.9)	(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

・200m

宇田 侑平(4)	23"87(風 : -0.1)	(6/21 第2回仙台大学陸上競技会)
中嶋 啓太(M1)	23"07(風 : -0.9)	(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
一ノ倉 聖(2)	24"08(風 : -2.3)	(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

・400m

中嶋 啓太(M1)	50"61	(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
-----------	-------	--------------------------

・800m

本間 亮太(2)	1'58"98	東北大歴代18位 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
----------	---------	--

・1500m

小林 和也(M1)	4'06"67	(6/21 第8回仙台市陸協長距離記録会)
相澤 直人(4)	4'18"58	(6/21 第8回仙台市陸協長距離記録会)
獅田 優(2)	4'56"55	(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

・5000m

荒川 淳一(M2)	16'22"35	(6/21 第196回日本体育大学長距離記録会)
-----------	----------	--------------------------

・400mH

中嶋 啓太(M1)	59"42	(6/1 第2回七十七銀行陸上競技記録大会)
川口 亮平(M1)	60"92	(6/1 第2回七十七銀行陸上競技記録大会)
八木 洋光(M1)	60"91	(6/21 第2回仙台大学陸上競技会)

・3000mSC

島田 健作(4)	9'47"46	(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
----------	---------	--------------------------

・走高跳

長谷川 翔平(M1)	1m60	(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
柴田 智弘(3)	1m50	(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

・走幅跳

長谷川 翔平(M1) 6m45(風 : +0.9) (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
川口 亮平(M1) 4m72(風 : +1.0) (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
原田 貴正(M1) 4m34(風 : -1.5) (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

・円盤投

杉本 和志(1) 22m29 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
川口 亮平(M1) 20m90 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

・ハンマー投

杉本 和志(1) 16m34 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
長谷川 翔平(M1) 13m85 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
川口 亮平(M1) 10m64 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

・砲丸投

長谷川 翔平(M1) 8m34 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
川口 亮平(M1) 6m20 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

・やり投

長谷川 翔平(M1) 39m96 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

<女子>

・800m

大淵 真波(4) 2'33"27 **東北大歴代 17 位** (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
小海 麻美(2) 2'35"51 **東北大歴代 20 位** (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
須藤 彰子(3) 2'38"38 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

・走幅跳

菊地 亜加里(3) 5m03(風 : +0.4) **東北大歴代 6 位**
(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
星 朝香(3) 4m53(風 : +0.2) **東北大歴代 14 位**
(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
酒巻 貴子(4) 4m35(風 : +0.5) **東北大歴代 16 位**
(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
飛内 茜(3) 4m34(風 : +1.6) **東北大歴代 17 位**
(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

• 三段跳

菊地 亜加里(3) 10m28(風 : +0.8) 東北大歴代 2 位
(6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

• 砲丸投

酒巻 貴子(4) 6m58 東北大歴代 18 位 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)
飛内 茜(3) 5m74 (6/28 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦)

#副務からのお知らせ

<OB 通信の電子メールによる配信について>

OB 通信の電子メールによる配信を実施することが平成 19 年度秋季三秀総会において再承認されました（平成 15 年度秋季三秀総会においてすでに承認されていました）。電子メールによる配信を実施する理由は以下のとおりです。

- ① 年間 30 万円以上かかる郵送費を削減できる
- ② 迅速に情報・連絡事項を送信可能
- ③ 送信回数に制限がなく、より頻繁に配信可能
- ④ データ類（画像、動画など）も配信可能

電子メールでの配信をご希望の方は、以下のメールアドレスに氏名、卒業年度を明記し、その旨をお知らせください。後日、副務より確認のメールをお送りします。お知らせをいただかなかった方には、引き続き紙面で配信いたします。

☆OB 通信電子メール配信希望の連絡先

Mail:hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp

<副務のメールアドレスの移行について>

長らく、副務のメールアドレスとして hukumu_tohoku@yahoo.co.jp を使用してまいりましたが、ホームページ上で安易に公開したことなどにより、多数の迷惑メールを受信するようになり、OB・OG の皆様からのメールとの選別が困難になっております。そのため、OB・OG の皆様からのメールが、迷惑メールとして誤って消去されてしまい、住所変更などの情報が確認できないという問題が生じています。副務では、OB 通信の電子メール配信のために、今年新たに別のメールアドレス hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp を取得しましたので、今後はこちらのメールアドレスに移行いたします。三秀会に登録されている情報に変更があった場合なども、すべて新アドレス宛てにお知らせください。

☆移行前(旧アドレス) : hukumu_tohoku@yahoo.co.jp

→移行後(新アドレス) : hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp

<全国七大学対校陸上競技大会ご来場の際の注意>

今年の七大戦は、地元・宮城陸上競技場での開催ということで、例年より多くの OB・OG の皆様をご来場されるかと思いますが、会場には一般用駐車場が設けられないとのことです。ので、自家用車でのご来場はご遠慮くださいますよう、よろしく願いいたします。

#今後の予定

- 7月26日 平成20年度東北学連ナイター競技会（愛島）
8月2、3日 全国七大学対校陸上競技大会（宮城）
8月7～12日 夏合宿（郡山）
8月15、16日 第30回北日本学生陸上競技対校選手権大会（新潟市営）

ナイター競技会は、9月に開催される東北学生駅伝選手権大会のメンバー選考において大きなウエイトを占めるレースとなります。また、10月に行われる出雲全日本大学選抜駅伝競走への出場権もかかっています。

そして、皆さんご存知のとおり、今年の七大戦は地元・宮城での開催となります。七年に一度の地元開催ですので、ぜひ宮城陸上競技場まで応援・観戦・参戦しにいらして下さい。

毎年恒例である中長距離パートの夏合宿は、今年は例年より一週間早まり、また場所を岩手山から郡山に移して行われます。

そして、今年の北日本学生陸上競技対校選手権大会は新潟での開催となります。昨年、東北大学からは5人のみの出場となりましたが、今年はより多くの部員が出場するようです。

#編集後記

お伝えしてきたとおり、今回の北大戦では男子が堂々の優勝、女子が惜しくも2位となりました。次の対校戦となる七大戦では、当然北大だけが敵ではありません。それどころか、北大以上の強敵を相手にする厳しい戦いとなります。七年に一度の地元開催となる今年、東北大学が総合優勝を飾ることができるよう、チーム一丸となってぶつかってまいりますので、応援よろしく願いいたします。

それでは、部員一同「宮城野」でお待ちしておりますので、8月2日、3日はぜひ会場までお越しください。

文責 副務 鈴木 雄輔